2020 年度実施概要

学校名

気仙沼市立小泉幼稚園

採択活動名

わくわくうみのたんけんたい　～地域素材に　見て　触れて　感じて～

取り組みの概要

１，親しむ

○どんな海があるの？…地域の海に行ってみよう！（小泉海岸，石割浜，馬場の浜）
○体験から遊びへ…海ごっこ（海を作る，生き物になる，海の仕事を真似る）

２．かかわる

○交流活動…保護者・蔵内之芽組・唐桑幼稚園・海の市職員・サケ養殖組合・地域等の人材

３．ひろがる

○唐桑幼稚園…互いに地域の海について紹介しよう（　話す・伝える・感じる）
○海の恵み・・・・・・・・・・・・・・・・・海の生き物の生態を知る。恵みを頂く。
蔵内之芽組見学・かまぼこ・シャークナゲット試食・タコの観察・タコ飯試食
○サケの捕獲場見学・・・・・・・・卵から稚魚へ，サケの成長を見る。

４．主な活動

（1）海って楽しいね

①小泉海岸ではサラサラの砂の感触や波の面白さを楽しみ，口に海水が飛んでくると「しょっぱい！」と驚き，波際で波と追いかけっこをしたり，穴を掘ると水が湧き出てくることの不思議さに驚き，いろいろ試す姿も見られた。また，落ちていた長い海藻を使って縄跳びをしてみたり，波に足が引っ張られる感覚の面白さを感じたりと，見て，触れて，聞いて，嗅いで，味わって…と五感を使って小泉海岸の楽しさを存分に感じた。

②石割浜では，ヤドカリ，イソギンチャク，カニ，ウミウシ，ヒトデなどの磯の生き物を“海の先生”に教えてもらいながら見つけることができた。この日はウニの開港日で，ウニ剥きの仕事をしている場面を直に見る機会ができ，実際にウニを触らせてもらうなどのたくさんの貴重な体験ができた。砂浜とは違う磯の魅力に気付き，体験後には海コーナーで写真や拾ってきたものを見ながら「この生き物いたよね！」「海の先生はどんなお仕事しているのかなあ」などと呟く姿が見られ，より海への興味や関心が深まっていった。

③馬場の浜遊びでは，年長児が唐桑幼稚園の年長児と交流を深めながら，馬場の浜での散策を楽しんだ。地域の小泉海岸や石割浜とも違う小さな石の海の様子を，タブレットや写真などを使っていきいきとした表情で年少・年中児に伝える姿が見られた。年少・年中児は興味深く話を聞き，「どんなものがあるの？」と質問したりして，馬場の浜に対するイメージや年長児への憧れを膨らませた。

（2）海や川のおしごと見てみよう！

①蔵内之芽組見学

幼児たちの海の先生への疑問から，海の先生が働いている「蔵内之芽組」の見学する。地域の海で採れるホヤ，タコ，ホタテ，アナゴ，カニなどの生き物を見たり，ホタテ釣りをしたり，タモを使って仕事体験をさせてもらったりなど，見て，触れて，地域の海で働く人や生き物との関わりを楽しんだ。これまでは海の生き物になりきって遊んだり，海を再現したりして遊ぶことが多かったが，海の先生の真似をしてタモで生き物を捕まえたり，芽組で見てきた生き物を作ったり等遊びに広がりが見られた，経験を再現して遊ぶ中で，「ここで採れたものはどこへいくんだろう」という幼児の疑問が生まれた。

②海の市見学

蔵内之芽組見学で感じた疑問から，各学年ごとに「働く人」「海のお店」「売っているもの」等見学の視点やねらいを幼児と一緒に考え，見学を行った。サンマ，サバ，太刀魚，マグロの頭などが立ち並ぶお店での見学では，「これはどこから来たんですか」など気になったことを積極的に質問する年長児の姿が見られた。シャークミュージアムでは，サメの模型や映像に驚き，夢中で見学する姿が見られた。お昼には，おにぎりと一緒に魚でできているかまぼこやシャークナゲットを試食し，海の恵みを味わった。

③小泉川サケ捕獲所見学

年長・年中児は昨年の稚魚，放流の経験から，「あの時のサケかな？」などと呟く姿が見られた。捕獲場では実際にサケのお腹を切り開いて，卵を出すところを見たり，目ができている卵に触れたりして，「目が動いた！」「この後はどうなるんですか？」などとサケの生態を学んだり地域の人との関わりを深めたりした。

（3）わくわく海の市をつくろう！

①海ごっこの始まり

海で遊んだ経験から，園庭に水を流し，海を再現しようとしている姿が見られた。ブルーシートを準備して，これまで遊びで使っていたタイヤを組み合わせ，“海ごっこ”が展開された。更には，全身を使って遊ぶ楽しさを味わった経験から，築山にブルーシートを広げて水を流し，“波ごっこ”を楽しんだり，石割浜での体験を思い出し身近にあるものを使って岩場を再現したりする等，遊びをより楽しむために友達と考えたり工夫したりして遊ぶ姿が見られるようになった。

②海ごっこ

蔵内之芽組，海の市での経験から，幼児たちの海ごっこが更に発展し，ホヤやホタテを作って釣りごっこをしたり，水眼鏡で作った魚を探したり，サメになりきって遊んだりする中で，「海の市を作りたい！」という思いが強まっていった。また，各学年ごとにねらいを幼児と一緒に決めたことで，各学年の興味や関心の広がりにも違いが見られた。

③わくわく海の市をつくろう！

海の市見学でクラスごとに興味を示したところから遊びが生まれ，年少・年中組で「お店屋さんごっこ」，年長組で「シャークミュージアムごっこ」等の製作が始まった。どのクラスでも，細部の再現にこだわり，特に年長児では，「ジンベエザメは光ってたよ！」と光る折り紙やプロジェクターを使って，より本物に近づけようとする姿が見られた。サメの目を制作する場面では，「怖い目がいい」「優しい目がいい」と意見が分かれ，納得のいくまで話し合い，日替わりで付け替えることに決めたりとより本物に近付けての製作が続いた。

④わくわく海の市オープン！

フリー参観日の際に保護者を相手に，ついにわくわく海の市がオープンした。「いらっしゃいませ～！」と大きな声でお客さんを呼び込み，はりきってお店屋さんごっこを楽しんだ。「これがおすすめです！」「次はこちらです」など自分たちが海の市での見学でかけられた言葉をお客さんにかけていた。幼児の変容を丁寧に見取り，幼児と一緒にねらいを考えて共有しながら進めてきたことで，幼児が主体的に進めることができた。

◎まとめ，来年度へ向けて

・昨年度から継続している小泉海岸での砂浜遊びは，海の面白さを十分に味わうことができた。困難度，新たに地域の海である石割浜の活動を行ったことで，生き物や地域の働く人の身近なモデルである海の先生との出会いがあり，新しい海の経験から，さらに海への興味が深まり幼児の「知りたい！」「やってみたい！」を引き出す，「蔵内之芽組ごっこ」「海の市ごっこ」等の活動を展開することができた。

・教師側が幼児の変容を丁寧に見取り，幼児の呟きを取り入れながら幼児の目線に立って体験活動やねらいを設定したことで，ねらいが明確になり，幼児が主体的に遊びを進めていく姿につながった。また，ねらいが共有されたことで教師の声掛けにも統一感が出て，幼児がイメージを共有しやすくなった。

・２年間の体験活動を通して，地域とつながる土台作りができた。来年度は地域とのつながりをさらに深めながら地域環境の良さを生かせるような体験活動の工夫をしていきたい。また，教師側の地域を知ろうとする意識や地域とつながろうとする意識を高めていきたい。

・今年度の経験から各学年に合ったねらいや年齢に合わせた活動が大切であると感じた。学年ごとに合った活動の吟味をしていきたい。また，同じ活動の中でも，幼児の変容を丁寧に見取りながら，これまでの活動とのつながりを持たせた体験活動を精査していきたい。